

6月17日、18日 到着からプロジェクトスタートまで

日本を出発する直前まで仕事をしてきた為に、あわただしい旅立ちとなりました。とにかく作品に関するものだけは忘れないようにしなくては、準備に関して注意したのはその点だけでした。

ヒースロー空港でレズリーさんに会って初めてプロジェクトのスタートを実感しました。次の日に私が滞在することになっているサリー大学のあるファナムへ移動しました。そして一緒に仕事をするフランシスさんと初対面。尊敬しているフランシスさんと会えて、しかも一緒に仕事を出来るなんてすごく光栄なことだと日本でも思っていました但实际上に会って再感激。フランシスさんの印象はとても優しく、フレンドリーな人。そしてフランシスさんからメッセージ入りの小さな作品をもらいました。「enjoy」この期間中は勿論のこと、あらゆることに通じる素敵なメッセージだと感じました。同じ日に学校内のテキスタイル工房を案内してもらいました。掃除も行き届いていてきっちり整理整頓されている工房を見て改めて、工芸というのは道具、テクニック、が大切な仕事なのだと確認しました。工房が美しく保たれている事、道具を大切に使う事、工芸という概念の基本を見たような気がしました。

6月25日 フランシスさんとの最初のセッション

先ずはこの先の計画をお互いの事を話しながら決めていくことにしました。

私のポートフォリオを見せてこれまでの作品の流れを説明しました。

それから家族の話や自分の話をしたりした後、ナショナルギャラリーの近くにあるsaint martins in the fieldで昼食を取りました。

ここは教会の地下にあり、床材の一部に墓標が使われており、とても静謐な時間の流れを感じました。私たちは時間、歴史、といったテーマが面白いのではないかと最初のミーティングで話をしたのですがこの日訪れた場所のあちこちでそれに繋がるものを見つけることになりました。それは偶然なのかも知れませんが、必然であったのかも知れません。それとも何かしらテーマを持って意識するということはどんな日常からでもそれに繋がることを見つけられるのだ、という新しい発見なのかも知れません。次にscience museumと

natural history museum、V&A museumを訪れました。

Science museumにはフランシスさんが旦那さんのロンさんと一緒に制作した音の出る作品があり、大変面白いものでした。改めてフランシスさんの仕事の幅の広さと広い意味でmixed mediaを実践している人だと感じました。

また、フランシスさんは現在、科学者とのコラボレーションも計画中らしく、いったいどんな作品となるのかこちらもとても興味深く思いました。

Natural history museumでは多くの化石や石を見ました。

自然が創り上げる形や柄はとても美しく、その中に歴史や時間が圧縮されて詰まっていると思うととても不思議で印象深く感じました。

これまでは慌しく過ぎていった感のある毎日ですが自分の制作に対する姿勢、興味の方向、プロセスの重要性、などなどこれまで自分自身で意識する事が不足気味だったものを意見として求められるのでとにかく良い経験となりそうです。

早くもいろいろ気づかされるのが沢山あるのですがそれは追々、
このジャーナルの中で触れていきたいと思います。
言葉にする、それも大切な表現の一つ。このジャーナルがあることでまた一つ、
その機会が増えたことを感謝します。